

令和6年度 多摩市立豊ヶ丘小学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重の精神を基盤として、調和の取れた人間性豊かな児童の育成	
◎ 実行する子(知) ○ 思いやの心のある子(徳) ○ 健康な子(体)	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
「毎日会いたい友達や先生がいる学校」「毎日受けたい授業がある学校」を合言葉に、地域・保護者及び関係諸機関と緊密に連携し、教職員が一体となって、児童が安心で笑顔あふれる教育を実践する学校	
目指す子供像	
○創造力を高め、他者と協働して、社会に貢献しようとす る児童	○児童一人一人と真摯に向き合い、教育に情熱をもち、 児童への愛情を注ぐ教師
○規範意識をもち、周りの人に優しい気持ちで接し、望ま しい人間関係を築く児童	○児童の個性を尊重し、自己肯定感を高めさせることができ る教師

自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	自己評価				学校関係者評価 （目標とする成果・指標 %）
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員 の意見	
・全児童の8割が東京ベーシック・ドリルで達成率85%以上だった児童は、全児童の約41%だった。「分かった」「できた」と学ぶ喜びの実現と思考力・判断力・表現力等の育成	2	東京ベーシック・ドリルで達成率85%以上だった児童は、全児童の約41%だった。「分かった」「できた」授業づくりの充実や指導の工夫が必要である。(1問誤答で90%切るため85%以上とする)	B	学習の理解度が低いよう に感じる。保護者アンケート との乖離があるように思う。 基礎学力の定着に向けた指 導の工夫を期待する。	
・思考力・判断力・表現力の育成を図り、学力に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	4	学力向上に関する保護者アンケートで、肯定的評価が93.1%だった。引き続き、問題解決的な学習の推進及び自分の考えを発表する機会の充実を図る。	A	東京ベーシック・ドリルの取組は工夫が必要である。 どこを指標にするかも検討 が必要である。 学校林の活用、地域貢献 など、特色ある教育活動に 力を入れている。	
・特色ある教育活動による体験活動等を通して、ESDで重視する能力・態度を育成し、ESDの推進に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	4	ESDの推進に関する保護者アンケートで、肯定的評価が93%だった。引き続き、学校林の活用、食育、地域貢献を柱に、SDGsを意識し、教科等との関連を図った教科横断的な学習を推進する。	A	アンケートの回収率を向 上させる工夫が必要である。	
評価のまとめ		問題解決的な学習やESDの実践について、良い評価を得た。より一層、地域との関わりやつながりを生かした教育活動を展開する。また、基礎・基本の定着に向けては、問題を正確に理解すること、粘り強く学習に取り組む態度を育成する必要がある。学習意欲の向上や学習習慣を身に付けるため、家庭と連携した家庭学習と地域未来塾での補習に取り組む。			

【評語について】

自己評価		学校関係者評価	
評語	達成状況	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上~100%	A 適切である
3	おおむね達成した	70%以上~90%未満	B おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上~70%未満	C 適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D 評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	自己評価				学校関係者評価 （目標とする成果・指標 %）
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員 の意見	
・道徳的な課題についての自分の考えをもち、他の人と話し合い、共有しながら、思いやりの心や規範意識等の道徳性の向上	2	6月のいじめ調査におけるいじめ認知件数は、52件で、うち11月の同調査で解消したのは、30件で、解消率57.7%だった。引き続き、いじめの早期発見、早期対応に尽力する。	B	いじめを100%解消したい という教師の思い、いじめの対応力の速さは高く評価できる。大人の目を増やしたり、校外のトラブルに対応したりしている。言葉遣いの乱れは、周囲に浸透し、暴言にも変わる。第三者が「いじめ」と認識すること、指摘することが大切である。	
・様々な体験的活動や集団活動により望ましい人間関係づくりができる児童の育成	3	「特別の教科 道徳」において、友達と話し合いながら、多様な考えに気づき、自己の生き方についての考えを深めさせ、思いやりや規範意識に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上とする。	B	教職員の普段の丁寧な言葉遣いの積み重ねが、児童への良い影響となっている。思いやり、規範意識については、高く評価して良いと考える。	
・いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努め、いじめの解消率を100%にする。	4	他学年、地域等との交流に関する保護者アンケートで、肯定的評価は、93.1%だった。引き続き、たてわり班活動を充実させ、地域人材・外部指導者と連携した授業を積極的に実施する。	A	2月のいじめ調査において、被害児童への聞き取りを通して、いじめの現状を把握し、さらに解消につなげている。また、新たにいじめと認知していたものもある。今後、いじめ防止委員会の機能を強化させる。また、いじめを「見逃さない」「見過ごさない」教員の意識を高め、いじめに関する指導を適切に行うこと、解消率を高める。さらに、挨拶、礼儀、言葉遣いについて全教員で丁寧に指導する。	
評価のまとめ					

(3) 健やかな体の育成

重点目標	自己評価				学校関係者評価 （目標とする成果・指標 %）
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員 の意見	
・生涯にわたり心身ともに健康な児童の育成と豊かなスポーツライフの実現を目指し、運動に親しむ児童の育成	3	学年別男女別での体力・運動能力調査で、国や都の調査結果を踏まえ、課題の克服に向けて国や都の記録の平均以上にする。	A	トヨリンピック、走り方教室などの子供たちの活動がよい。近年猛暑で、子供たちの活動が制限されていた。体力向上の工夫が必要である。	
・自分の身は自分で守る危機回避意識と交通安全に関する取組や避難訓練等をとおした児童自身による危機回避能力の向上	4	子供の安全の意識に関する保護者アンケートで、肯定的評価が97.2%だった。引き続き、防災教育の充実を図り、児童の危機回避意識を高める。	A	防災教育の取組が良かつた。ヘルメットを着用した自転車の安全運転、食物アレルギーの事故防止に努めてほしい。	
・食に対する意識の涵養	4	給食指導、栽培・収穫などの体験活動を通して、食に対する意識を高め、健康に関する保護者アンケートを90%以上とする。	A	トヨリンピック、外遊びの励行など、日常の取組と体育授業の充実により、運動能力・体力調査では、概ね国や都の平均を超えた。国や都の調査結果を踏まえ、課題の克服を目指した取組を行う。また、第4学年で、地域、外部専門家に協力を得て、防災教育を行った。今後も学校全体の防災教育の充実を図る。全学年の栄養教諭の授業などで、食育の取組の高い評価を得ている。今後も児童の発達段階を踏まえた食育の推進、栽培活動を行う。	
評価のまとめ					

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの強みを生かし、保護者及び地域の教育力を積極的に活用し、連携協働した教育活動の推進 ・学校だより、学年や学級だより、学校ホームページ等の情報発信やICTの活用による授業の開発による学校理解度の向上 			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
・保護者アンケートによる「保護者と協働した教育活動」に関する肯定的評価において90%以上とする。	4	保護者やPTAと協働した教育活動に関する保護者アンケートで、肯定的評価が、90.3%だった。保護者の方の知恵と協力を得た授業を実施する。	A	家庭科授業、多摩そば作りなど、地域・保護者と知恵を出し合い、協力して授業を進めている。 学校の取組を「豊っ子日記」で適宜発信しており、子供たちの様子が見られて良かった。 学校DX化が進み、保護者・地域に速やかに情報伝達できていた。
・保護者アンケートによる「地域と協働した教育活動」に関する肯定的評価において90%以上とする。	4	地域と協働した教育活動に関する保護者アンケートで、肯定的評価が、94.5%だった。地域の方の力を生かす授業を一層進めていく。	A	
・保護者アンケートによる「情報発信」に関する肯定的評価において、90%以上とする。	4	情報発信に関する保護者アンケートで、肯定的評価が、94.5%だった。「豊っ子日記」等を活用して、日々の教育活動を発信する。	A	
評価のまとめ	保護者や地域の人が参画した教育活動を実践できた。保護者や地域と協働した教育活動に関するアンケートでは高い評価を得た。「豊っ子日記」では、児童の様子を随時伝えることができた。情報伝達も迅速にできた。今後は、協働した授業を行うとともに、児童の地域行事への積極的な参加を促す。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

【学校経営の方向性】

「2050年の大人づくり」に向けて、児童には、社会の急激な変化を捉え、未曾有の危機や課題に対応する力が求められる。幅広い知識と柔軟な考え方、他者と協働する態度から、未来を生き抜く力を身に付ける必要がある。そこで、本校では、今年度に引き続き、創造力を高め、他者と協働して、社会に貢献しようとする児童、規範意識をもち、優しい気持ちで人と接し、人間関係を築く児童を目指す。

そのため、「問題解決能力」「人間関係形成力」「自己実現を図る態度」の育成を図る。

「問題解決能力」の育成に向けては、「分かった」「できた」「楽しい」授業の創造、主体性・協働性を意識した学級経営、思考力・判断力・表現力等を育むICTの活用、学校林や地域人材を活用したESDの推進、地域未来塾等による補習等を行う。

「人間関係形成力」の育成に向けては、挨拶、礼儀、適切な言葉遣いの励行、迅速かつ適切ないじめ対応及び未然防止、異学年及び地域との協働活動等を行う。

「自己実現を図る態度」の育成に向けては、体育的活動の充実、食育の推進、学校行事等による自己肯定感を高める指導等を行う。

【課題】

学校経営方針及び目指す児童像を、保護者・地域と共有し、地域全体で社会に貢献する児童の育成に努める必要がある。保護者・地域人材に理解と協力を得て、学校の取組に参画する仕組みを構築し、連携・協働した教育活動を推進する。

以上のとおり報告いたします。

令和7年2月20日

多摩市立豊ヶ丘小 校長 佐藤 真澄

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立豊ヶ丘小学校